

会 議 錄

1 会議名

令和 7 年度 第 6 回春日区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 報告事項（公開）

- ・公の施設の使用料等の見直しについて

(2) 自主的な審議（公開）

- ・自主的審議事項について

3 開催日時

令和 7 年 10 月 8 日（水）午後 6 時 30 分から午後 8 時 20 分まで

4 開催場所

上越市民プラザ 第一会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）

- ・委 員：飯田委員、池亀委員、太田副会長、折橋委員、崎田委員、瀧本委員、
田中会長、田邊委員、原委員、本多委員、山谷委員、吉田(実)委員、
吉田(義)委員、渡部委員（欠席 5 名）
- ・資産活用課：丸山係長、藤野主事
- ・事務局：中部まちづくりセンター 井守所長、村山副所長、渡邊係長、鈴木主事

8 発言の内容（要旨）

【村山副所長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【田中会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・挨拶

【村山副所長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【田中会長】

- ・会議録の確認：山谷委員に依頼

次第3 議題「(1) 報告事項」の「公の施設の使用料等の見直しについて」に入る。資産活用課の説明を求める。

【資産活用課 丸山係長】

- ・資料No.1、No.2に基づき説明

【田中会長】

ただ今の説明について、質問はあるか。

【吉田(実)委員】

公の施設の使用料等の見直しとのことだが、現行の金額と、来年からいくらになるかなどの提示はないのか。それが無ければ何も答えられない。

【資産活用課 丸山係長】

見直しについては、原価計算の方法や市外料金の上限を例えれば2倍から3倍にするなどの、調整事項等を基本方針としてまとめたところであり、これに基づき、この市民プラザなども含めて、令和9年4月からの新しい料金をどのような料金にするか検討を始めている。具体案については来年の4月以降に地域協議会の場で詳細を説明させていただきたい。

【田中会長】

施設の使用料を上げることしか考えていないが、今、世の中では健康が大切なので運動をしましょうという中において、スポーツ施設の担当のスポーツ推進課が、年間利用者数を増やす努力をすれば、利用料金の引上げの幅が減るのではないか。これは資産活用課だけの考え方なのか。スポーツ施設は受益者負担率が低いとのことだが、担当課との調整、あるいは利用者の利便性を考えた検討は同時に進んでいるのか。

【資産活用課 丸山係長】

まず資産活用課が制度の原則と基本方針を定めているが、それぞれの施設によって事情も異なる。スポーツ施設であればスポーツ推進課、公民館関係であれば社会教育課といったように、それぞれの施設所管課が検討する。市の同じような施設で、課によって

考えが異なるときは、資産活用課で調整し提案した上でのやり取りの中で、整理する。原価計算では現在の利用者数に基づいて行うが、例えば12月議会で利用料金の引上げを諮る「上越市立水族博物館 うみがたり」では、将来の見込みを立てながら算定している。基本的な方針に沿ってというところからは、少しずれるようにも見えるが、例えばスポーツであれば振興の頑張りや、社会情勢で利用見込みが増減するのが分かっていれば、それも勘案した上で使用料を定めることも考えられるので、絶対これでなければならないというわけではなく、スポーツ振興の部分が担保されているならば、その数値を使うというのも考えられなくはない。まずはスポーツ推進課で検討することになる。

スポーツ施設におけるスポーツ振興の活動や、公民館における文化振興の活動などに対して使用料減免制度があり、実際にスポーツ施設では減免が適用される活動が多く、スポーツ施設の受益者負担率が7.9パーセントと低い理由にもなっている。資料No.2の3ページの受益者負担割合のマトリクス表で言うと、例えば、受益者負担率が現在70パーセントの温浴施設では、標準的な受益者負担率でいうと100パーセントということで、上げなければいけないというものもあれば、逆にスポーツ施設の場合は施設の性質や目指すべきところも違うので、50パーセントを目指しつつ、現状や今後の見込みも踏まえ使用料を設定するとともに、市民の皆様に説明させていただきたいと考えている。

【渡部委員】

春日山荘で以前、水彩画を勉強していたが、老朽化で使用できなくなった。近くで他の場所をお願いしたが場所がなく、福祉交流プラザを提案されたが、遠すぎて、自転車や徒歩で通っていた高齢者はやめてしまう。今は、市民いこいの家を利用しているが、駐車場が狭いうえに車で行かなければならず非常に不評。春日山荘はどうして使えないのか。あるいは近くの埋蔵文化財センターや春日謙信交流館は利用できないのか。高齢者が文化的なことを学び、長生きするという市の考えと逆行している。春日山荘は何か使う予定あるのか。

【資産活用課 丸山係長】

春日山荘の使えない理由については、わからないので、お答えできない。

【吉田(義)委員】

5ページの使用料等の見直し予定施設というのは、観光・レクリエーション施設等についてのことなのか。例えば、市民プラザ、レインボーセンター等、使用料が取られている。それは3ページのところの受益者負担が50パーセントの枠に入るという意味で捉え

ていいのか。温浴施設ばかりのことを言つていて、全般的に公費負担が増えてくるので見直しが必要で、3ページの分類に該当したものを見直す。先ほどの意見のように、具体的にそれがいくらになり、どういう風になって、現状がどうなっているのか、全体的には分かるが、具体的にどうなのかが分からぬ。経緯もわからぬ。例えば建物の老朽化で修復費用を見ておかなければならぬなど、経緯がわからぬと、つかみにくい。

【資産活用課 丸山係長】

この市民プラザも含め、公の施設で使用料等がかかっている施設全てに対して、令和9年4月を目指して使用料等の改定を行う。一方で、5ページの表にある17施設、温浴施設を中心にキャンプ場などの施設は、最近の物価高騰の煽りを大きく受けているので、令和9年4月まで待てないということで1年前倒して、来年4月からの施行を目指し見直しを行う。

1ページの収支状況についても、184施設の令和5年度の収支と申し上げたが、こちらは使用料がかかっている全ての施設の収支の状況を表している。傾向として市町村合併時に1,000あった施設が今600になり、単純に考えると維持管理経費も大分下がっていると思われたが、全体としては、やはり最近の物価や人件費の高騰などで維持管理費は20年前とあまり変わっていない。物価高騰と施設の老朽化に伴う修繕も出てきている理由から思ったよりは維持管理費は変わらなく若干下がっているぐらいだと思う。ただそれも1000あった施設が600に減少したことの成果であり、それが1000のままならば、維持管理経費が上がっていたことは目に見えている。市民の皆さんの理解と協力のもと減らしてきたおかげで、今の市の行財政が成り立っている。

また使用料の見直しは、平成27年度と令和2年度に行った。5年ごとに行う予定だったが、今回、令和7年に行うと市民生活への影響が大きいと考え、令和9年4月、2年先送りしたという経緯がある。市では、定期的に使用料を見直し、何とか施設を維持管理できるように上げさせていただいている。

【池亀委員】

使用料とは関係ないが、最近、廃校になっている学校が多く、もちろん電気や水道を使わないが、原価償却などの費用がかかっていると思う。どのくらいの費用がかかっているのか。

【渡邊係長】

学校に関しては教育委員会が所管しているため回答できない。

【崎田委員】

1ページの、受益と負担の公平性として、その割合について考えたいと言っている割には、4ページになると、燃料費が上がってきたから今度は使用料上げたい。ただ燃料費が上がってきたのは原価に含まれるから、自動的に金額は出てくるのではないか。私たちに使用割合を変えていいかと聞いているのか。

【資産活用課 丸山係長】

1ページに、受益者負担率を棒グラフで表している。温浴施設が分かりやすいので例に挙げるが、温浴施設の受益者負担率は約70パーセントで、3ページにあるように、あくまでも理想になるが、運営経費を利用料金で100パーセント賄えるようにしたいという思いがある。今は70パーセントにとどまっていて、逆に30パーセントは利用していない市民の税金を充てていることになるので、極力利用している方から負担していただきたいということで、段階的ではあるが料金を上げさせていただきたい。

【崎田委員】

使用料金は自動的にこの計算式で出てくるので、負担割合を考えてくれということを聞いているのか。それともこれはあくまでも計算式であって、実際は違うということなのか。

【資産活用課 丸山係長】

具体的な数字は持ち合わせていないが、理論上の料金はすごい数字になり、現実的でない数字が出てくる可能性がある。その部分は激変緩和措置として許容できる範囲とする。また、民間の同種のサービス、温浴施設は数多くあり、そこよりもさらに倍高くなるとお客様が来ないことも考えられるので、バランスを見ながら料金を定めることとしている。

維持管理費を使用料等で賄うなど、逆に維持管理費を工夫によって下げられるものもあるという、市の使用料の設定の考え方について、皆さんのご意見をいただきたい。

【吉田(実)委員】

温浴施設とか高齢者福祉に関わるところは、どんどん高齢者が使い、元気になっていただきたい。コストの中には固定費と変動費があり、利用者を増やせば、その固定費は人数割で減ってくるので、当然使用料金も下げることができる。今はシニアパスポートで高齢者は割引してもらっているが、スタンプラリーや回数券などを使って、割引率を上げる、利用者を増やすなどの工夫をして、コストを下げていく。それで介護保険料を

下げるとか、いろいろな効果が生まれてくるので、高齢者福祉の担当部署とよく相談して、利用率を上げていき、市民のための有益な改善に取り組んでほしい。行政の改善をやってほしい。民間も苦しみながらコスト下げている。固定費、変動費を下げている。そういう工夫を行政もやってほしい。

【渡部委員】

公の施設の使用料等の見直しについて、我々は何をしたらいいのか。これから行うことについて知ってほしいということか。

【資産活用課 丸山係長】

今後の動きについてと、使用料の見直しをこういう考え方のもと設定していくという基本方針についてご理解いただければと思う。

【渡部委員】

勉強会のようなことで、採決をとるわけではないということを承知した。

【田中会長】

他に質問はあるか。

(発言無し)

質問が無いようなので、以上で次第3議題「(1) 報告事項」の「公の施設の使用料等の見直しについて」を終了する。

・資産活用課退席

次に、次第3議題「(2) 自主的な審議」の「自主的審議事項について」に入る。これまで2回にわたり、「子どもたちが愛着を持てる春日」、「誰もが誰かとつながっている春日」に関する具体的な解決案を、グループで話し合った。今回はこれを整理して次に進める。協議の仕方について、事務局から説明する。

【渡邊係長】

①「子どもたちが愛着を持てる春日」、②「誰もが誰かとつながっている春日」の2つのサブテーマに沿って、具体的な解決策について話し合った。これをまとめた資料がNo.3、No.4である。解決策と言っても、具体的なイベントから地域愛に関する想いなど、意見の具体性に差があったため、資料No.5のとおり言葉の整理をするとともに、資料No.6のとおりワークシートを用意した。

2つのテーマについて話した際、「愛着」についてと、「つながる」ことについての話題もあったため、押さえておくべきポイント=条件として、それぞれ記載した。これに

沿って、そのために取り組むべき具体的な解決策を資料No.5 から抽出していただきたい。
資料No.5 にある意見以外でも思いつくものがあれば述べていただきたい。

【田中会長】

ただ今の説明について、質問はあるか。

【吉田(実)委員】

いつになったら具体的な話に入っていけるのか。

【渡邊係長】

あともう一步だと思っている。この具体的な解決策が出てくれば、その後、以前フレームワークということで、5月に資料をお配りして、その後もう一度お出したと思うが、それやるためにはどうしたらいいのか、実現するにはどうしたらいいのかという具体的な話に入っていける。それが決まれば地域協議会としての意見が固まると思うので、次回以降はこれを埋める作業に入っていけば、皆さんも分かりやすいと思う。

前回、前々回と2回にわたり、お一人4回発表していただいた。同じ内容でもいいとしていたので、資料No.3、No.4には同じ話が出されており、資料No.5にまとめた。具体的な解決策ではなく、そもそも愛着とは何か、つながっているというはどういうことが大事かというような気持ちの部分もあるので、事務局としては皆さんのご意見を一つ一つ大事にして整理していきたいと考えている。時間をかけながらで申し訳ないが、取り組むべき具体的な解決策がまとまれば、また一歩進めると思う。

【吉田(実)委員】

終着点がよく見えない。これをやって春日区のために何の効果があるのか考えてしまう。個人的には、やはり今まで実行してきた3つの柱である観光、福祉、防災。非常に重要なことには取り組まずに、皆さんの話し合いで進めようとしているが、この「愛着を持てる春日」と「誰もが誰かとつながっている春日」は、地域コミュニティのつながりだと思うが、それについて、ある程度、事務局や正副会長が何か終着点を見据えた中で、こういうものを皆さんで考えて、こういう効果を生んでいけるという、多少の見込みを持ってやってほしい。今期の2年目の後半に入っているが、まだテーマも決まらず、何も活動していない。協議はしているが成果は上がっていない。もう少し切迫感を持ってやってほしい。

【田中会長】

漠然としたものの中から、確固としたものを導き出そうと進めている。もちろん委員

がおっしゃるように、例えば市に意見書を提出、地域の団体とつながるなどの方法があるが、私たちの協議がまとまった時に、どこの団体とつながるか、どのようにして取り組むかというふうに進んでいく。グループに分かれて具体的に協議したい気持ちも分かるが、皆さんの考えを反映して行こうとしている。歯痒い気持ちの方もいると思うが、皆で話し合って取り組むべき具体的な解決案が決まれば、そこに向かって地域の団体や市の担当課とつながるなどの具体案が出てくると考えている。この春日区を良くしようという思いを共通で持ちながら進めていきたい。

通年観光計画の中に、吉田(実)委員が中心となって進めていたことは、ほぼ織り込まれている。地域協議会がその計画に関して意見する余地はない。担当課で取組が進められており、報告はあるにしても、私たちが取りまとめた意見は、意見書として整理、提出し、市から理解してもらっていると考える。

【吉田(実)委員】

春日区の問題について取り組み、協議していくのが、地域協議会の役割だと思う。

まず、昨年1月1日の地震の際、春日中学校体育館のストーブに燃料が無く、寒くて体育館に居られずに、校長の許可を得て教室に避難した。そのときに各町内の自主防災組織はどう動いていたのか。

そして9月3日の水害では、うちの車庫も浸水し、市役所の前も冠水した。ああいう水はけの状態を地域協議会で勉強して、防災について考えるなど、目先の問題、課題に取り組まず、こんなのんきな話をしていいのかと私は思う。最初の取り掛かりが間違ったのではないか。地域課題を明確にし、それについて取り組んでいくのが本来の進め方ではないか。

【渡邊係長】

一年近く前に、皆さんで春日区の強み弱みについて協議していただいた。春日区のコミュニティについての発言が一番多く、今期取り上げているのはコミュニティ。コミュニティの強化なのか、まだはっきりとテーマが定まってないので、「子どもたちが愛着を持てる春日」、「誰もが誰かとつながっている春日」というサブタイトルにさせていただいている。実際にはこの上にしっかりととしたタイトルを付けたい。それを付けた方が話が早いのかもしれないが、皆さんが話していく中で、よい言葉をここに付けたいと考え、保留状態で今は進めている。それがないから、今は少しモヤモヤしていて、分かりにくいのではないか。今期はコミュニティについて進めている。コミュニティと言

うと、結構漠然としているイメージがあるので、防災や福祉と比べて分かりにくいのかかもしれないが、今は春日区のコミュニティについて、協議していただいている。

【吉田(実)委員】

例えば今、直面しているのは、春日区だけではないが、老人会が潰れている。コロナの影響で活動が止まって、そのまま自主解散。新光町も去年まで活動が止まって解散状態だったが、今年、私が会長になり活動復活して健康マージャンを始めたりしている。そういうコミュニティの問題について、具体的な各論も無く進めている。

以前、春日区に振興会を立ち上げようという話もあったと思う。それもコミュニティ。地域協議会は活動する組織ではないので、実行する組織があってもいいのではないか。春日区として、各分野の人たちが協力して活動するようなコミュニティを作っていくなど、そういう話ならいいが、とにかく最初のきっかけがよく分からない。

【太田副会長】

吉田(実)委員としては、もう少し具体策、結果が出るような方に向かってはどうかという想いがあると捉える。私も前期に福祉の話で、まちづくり協議会などの具体的な話も出たが、町内会や他の団体とも協議した結果、そこはなかなか難しいという結論になった。町内会に関しては、町内会長の負担が増えてしまうという問題もあり、商工会や他の団体に対しても難しいということで、コミュニティの件に関しては一度、地域協議会でも取り扱ったが、なかなか難しいという結論に至り、その時は本当に残念だったが、そこで一回その案件に関しては終わったと判断した。

防災についても以前、この春日区地域協議会で防災士会の春日支部の設立を要望し進めた結果、支部ができた。先ほどの防災の話に関しては、防災士会でも今までのさまざまな災害、水害が起こったときに足らなかった部分については、行政、町内会、各関係各所に要望し、協議していると思う。

今まで吉田(実)委員が中心に進めて、いろいろな成果を残してきたので、モヤモヤ感があるのはとても理解はできるが、今期は初めて委員になられた方が半分以上、ほとんどが初めての方なので、逆に私たちのように経験者が主導するよりも、私たちがアドバイザー、オブザーバーみたいな形でフォローしながら、こういう話題が新しい委員から上がっているので、そこを尊重してやっていくのがよいのではないか。吉田(実)委員からすると、結果が出ないし、委員は何やっているのかと思っておられるのかもしれない。しかし、この話題は大事なこと。最終的にこれをやらなければいけない、こうすればよ

いなどの具体的策は出ないかもしれないが、こういう問題があることを地域協議会委員が認識して、地域の方たちに伝えるような形を落としどころとするのでもよいと思う。

【吉田(実)委員】

大切なことは、各委員が今の春日区のテーマについて、現実的な問題や課題を本当に認識した上で想いであるかということ。コミュニティについて、具体的にどんな問題点を各委員が考えていて出しているのか。現状の問題点や課題を、皆が細かく認識しているのか心配。勉強不足というか認識不足なのではないか。

【田中会長】

問題点については皆さんから意見が上がっているので、しっかりと認識している。資料No.3、No.4にあるように、解決策について協議してきたので、そう判断できる。

他に意見はあるか。

(発言無し)

次に各自で意見をまとめ、発表していただく。

それでは、私から発言する。まず「子どもたちが愛着を持っている春日」について、謙信公祭への参加を考えなければいけないことと、春日山城跡保存整備促進協議会が市民と共に活動ができたらと思う。昔あった謙信公クイズを復活させ、興味を持ってもらう。

「誰もが誰かとつながっている春日」については、簡単なゲームで子どもたちと高齢者が一緒に楽しむことを目標に、eスポーツを行う場所を作る。田舎の離島などでそういう事例もあり、簡単なゲームで楽しく遊ぶことを提案する。その他にも、ウォーキングポイントとして、歩いている者同士が気軽に挨拶をしたり、交流し合う。健康づくりや人づくりにもつながる、そのようにして春日区の中でつながり合いませんかという取組を進めていきたい。

【太田副会長】

「子どもたちが愛着を持てる春日」ということで、この春日区では、2つの小学校の子どもたちが1つの中学校に集まる。大規模校がある割には恵まれた学校区の設定である。大規模校だと、半分の児童が違う中学校に通学することもあるので、この立地条件をいかして3校が一緒に春日山の歴史や、ここには大きな川もあるので水についての歴史を学ぶことでも、子どもたちから地域に関心を持つてもらえると思う。

もう一つが、私たちが子どもたちに、かっこいい姿を見せて、「大人はかっこいい」、「地

元に残っていたい」、「大人になつたら戻ってきたい」と感じてもらえるような地域にしたい。謙信公祭や春祭り、春日神社では4月22日に春祭りもあり、地域の若者が神輿を担いでかっこいい姿を見せており、そういう祭りに参加している姿を子どもたちに見せて、いい刺激にしてあげたい。

また「誰もが誰かとつながっている春日」については、町内会や子ども会も含めて役員のなり手がいないので、負担を減らし、誰もが役員を引き受けやすく、気軽に集まることができる町内会づくりができたらと考える。また、これだけ人口が多いところなので、多様な趣味を持っている方が多数いる。ここにも絵の好きな方がいらっしゃるが、私は写真が好きで、風景や初日の出を撮りに行ったり、子どもを撮ったりしている。同じ趣味を持った幅広い年代の方が集まり、コミュニティがつくられると思うので、趣味の会を開催できる地域になるとよいと思う。

【渡部委員】

まず子どもも大人も、美味しいものが食べたい、安く何かを買いたいなどと本能的に思っている。そこで私は楽市楽座として、骨董市などの開催を提案する。以前、金谷山で開催されたフリーマーケットに行ったことがあるが、たくさん的人が集まっていた。子どもや大人の本能にポイントを置かないと盛り上がらない。ただ行政に断られる可能性もあるので、難しいかもしれないが「謙信楽市楽座、毎月月末の日曜日はすごいよ」と盛り上げるのもよいと思う。

「子どもたちが愛着を持つ春日」、「誰もが誰かとつながっている春日」に関しては、春日区にあるスポーツ推進員、春日地域青少年育成会議、春日地区町内会長連絡協議会、老人会が、そういうものをもっと頑張らないとダメだと思う。我々がただ何か言っても何もできない。ソフトボール大会や綱引き大会をやるときに、どうしても自分の町内から出さないといけないとするとスポーツ推進員が動く。ソフトボールや綱引きは大変なのでゲートボールでもよいし、そういう春日区としてまとまった行事を行うべきだと思う。

【吉田(義)委員】

「子どもたちが愛着を持てる春日」について、学校教育の中に、謙信公に絡む歴史的な学ぶ機会を設けてはどうか。謙信公祭の当日休校にして、生徒に参加してもらう。まちを全体で盛り上げる。そのために謙信公について専門的な外部講師を呼んで、歴史的なつながりを教えてもらう。その子どもたちが大人になったとき、春日山の謙信公につ

いての話がスラスラと出てくるようになるのが理想である。例えば糸魚川市ではジオパークの検定試験を行っている。謙信公に関しても知識を身に付けた上で行う教育の取組を作れば、子どもたちはそこから目覚めて愛着を持てる春日になるのではないか。

「誰もが誰かとつながっている春日」は、町内会を中心になっているところは、活発にいろいろなことができている。そのよいところを学ぶ。春日地区町内会長連絡協会の活動をもう少し活発にしていただき、その結果を各町内に下ろすような活動も必要。

もう一つは、昔は農家に有線放送があった。最近の災害、クマやイノシシの目撃、火災、交通事故などの情報を地域で放送できる通信システムが、春日地区にあってもよいのではないか。さらに地域でチャンネルを切り替えられればイベントの開催も周知でき、人を集めることもできる。

【吉田(実)委員】

「子どもたちが愛着を持てる春日」については、やはり子どもたちに思い出を残すこと。私が小学生の頃は、謙信公祭の前に春日山の草刈りに行ったし、高校生の頃は地元の市議が謙信公役で、私たちは武者役をやった。市の観光キャンペーンで東京都や高崎市などに武者隊で行ったこともある。小田原北條五代祭りというのがあり、小田原市内を完全に通行止めにして、武者は高校生が演じていた。若い人たちにそういう体験をさせて、小田原の北條氏を敬い、そういうイベントに参加させている。やはり謙信公祭を絡めた活動が大切だと思う。それから春日山節や歌や踊り、小川未明の詩を歌にするなど、そういう文化伝統を子どもの頃から教えていくことが大切だと思う。

コミュニティについては、新光町は青年会がなくなった後、青（成）壮年会が実行部隊になって、さいの神や運動会を行っている。町内会長は指揮するぐらい。各町内でそういうものを組織するのも大切であり、地域で指導する人たちを育成する動きが必要。うちの町内も町内会長や老人会長のなり手がいない。人材不足なので育成は非常に大切だと思う。

【山谷委員】

公共の施設だけではなく、空き家も問題になっている。空き家を利用して、高齢者や子どもたちで小さな趣味の会や、小さな教室、防災など、大人数ではなくても、少しづつでも伝えていける、そういう教室とか発表会などを開催したら、つながっていけるのではないか。子どもたちも楽しいのではないか。小さなものたくさん開催したらよいと思う。

【本多委員】

「子どもたちが愛着を持てる春日」については、お祭りや町内行事のときに、子どもたちにもある程度の役割を持たせ、やる気を出させるようにするのが大事。大人がやっていることに子どもが乗っている状態では、子どもたちは愛着を持たない。仲間と一緒に活動することで、自分がやったという達成感があり、かなり気持ちに残ると思う。

「誰もが誰かとつながっている春日」は、例えば町内会、同好会、老人会、子ども会といろいろな組織があり、そこからまず活動を進めなければならない。だから時間がかかるかもしれないが、小さい団体からまず活動し、町内会につなげる。私も老人会の役員をしたり、他の老人会のスポーツに参加したりしている。老人会の話を聞くと、役員になるのが嫌だから会員を辞めるという短絡的な考え方がある。やはり横のつながり大事にすれば、一人ぐらい役員をやる人が出てくる。そうすれば絶対、組織は無くならない。子ども会やPTAに入らないのは、親が役員になりたくないから。その考えでは良いことを言っても無理。

【原委員】

「子どもたちが愛着を持てる春日」については、上杉謙信公を中心とした地域愛の醸成が大事。特に子どもたちには学校教育の中で謙信公の顕彰を進めるべきではないか。あくまでも課外授業ということだが、地域にこれだけの偉人がいたということを子どものうちから知ってもらう。そうすると大学へ進学して全国の仲間と話すときに、自分の地域には上杉謙信公という強い武将がいて、こういうことをやったというところから、いろいろな交流ができる。

「誰もが誰かとつながっている春日」について、私はコミュニティの最たるもののはやはり町内会だと考える。副会長を4年やった経験上、親と子と一緒に参加できるイベントを年間通じてたくさん行っている。参加する、参加しないは個人の自由なので、そのイベントが盛んかどうか分からぬが、活動はきちんとしている。だから少しでも参加者が増えるように工夫していく努力が、孤立を進めない一つの方法だと考えている。上手い対策ではないと思うが、小さなところからコツコツとやらなければならぬ。

【田邊委員】

私も「子どもたちが愛着を持てる春日」は、小学校での教育だと思う。春日山があるので、山歩きや松葉かきなどの行事を通じて、教育する。春日山は全国に知られているが、もっと学校の教育が必要だと思う。

「誰もが誰かとつながっている春日」については、趣味のつながりだと思う。町内でもゴルフをしているが、他にも将棋などのいろいろな趣味を春日区で声をかけながら、持ち回りにしてもいいし、そうすることでつながりが持てると思う。

【瀧本委員】

「子どもたちが愛着を持てる春日」については、子どもの頃から謙信公に関する事を春日小、高志小、春日中の教育内容に取り入れてもらいたいと思う。

「誰もが誰かとつながっている春日」については、少し難しい。いろいろな活動をしても、出ない人は出ない。それをどうやって参加してもらうかは、私にはよい方法が分からぬ。町内会の年間行事で毎年同じことをやっていても出ない人は出ない。どうやって連れてくるかが問題だと感じている。

【崎田委員】

「子どもたちが愛着を持てる春日」について、私の場合、小学校の名前にお城の名前がついていて、中学校ではテニスコートがお堀のすぐ脇にあった場所にいた関係で、非常に思い出深い。例えば、春日山城にしても本当はもっと広いはずで、ただ表のほんの極一部が開かれているだけで、もっと広くすれば他のところも散策でき、愛着が湧くのではないか。

先日の水害、私のところはそれほど雨が強くなく気が付かなかったが、J C Vを見たら、市役所周辺が冠水し、直江津地区はもっとひどい状況が分かった。ただそういう情報が全然入ってこない。そういうのは何とかできないのかという提案。

【折橋委員】

「子どもたちが愛着を持てる春日」については、思い出があること、春日区をよく知ることが挙がっていたと思うが、例えば、謙信公謎解きウォーキングゲームなどを開催すれば思い出になり、春日区をよく知ることもできる。

あとは最近、キャンプファイヤーなどはあまり行わないが、夜に焚き火を囲んで友達と喋ると、そういうことが思い出になるので、焚き火の会を開催してはどうか。

地権者との関係で難しいかもしれないが、キノコ狩りや山菜採りなどを名人に教えてもらいながら、子どもたちと一緒にを行い、最後に料理をして食べるということをやれば、思い出になるとを考えた。それが「誰もが誰かとつながっている春日」にも入ると思う。

【池亀委員】

「子どもたちが愛着を持てる春日」については、

- ・地区をよく知るということで地区の見学会やウォーキングを実施する。
- ・防災に関して、水害対策として海拔の表示板の「ここは何メートル」が大きく見えるように設置する。
- ・文化の伝達として春日村歌をあらゆる機会に利用していく。
「誰もが誰かとつながっている春日」については、
- ・各地区の町内会の連絡会を開催する。町内会同士が集まり、地域協議会委員も参加し、問題の共有化、実施されている好事例を共有化していく。
- ・地域全体の作品展、文化祭を実施する。その際に各家庭に眠っている不用品を 300 円から 500 円で売り、それを寄付金に回す。
- ・児童と高齢者との交流の場としてサロンを設置する。
- ・地区の麻雀クラブの会を作る。

【飯田委員】

私の周りには、ふるさとの自慢される方が日本全国にたくさんいらっしゃる。日本にはいいところがたくさんあり、その中でも一番熱く、自分のふるさとを自慢されるのは福島の会津の方で、しかも若い人。学生あるいは働き始めた若い人たちの中でも、一番ふるさと自慢をされるのが会津の方で、酒の場でも会津の心、会津魂、そういう単語が次々と出てくる。それを見ると、上越市出身の学生などの若い人たちが、県外に行ってお酒を飲んだ時に、ふるさと上越市、春日山の自慢が次々とすぐ出てくるようにならなければならないと思う。そういう方もたくさんいると思うが、そのためには子どもの頃からの記憶や、そういうことを熱く語る皆さんのような方が周りにたくさんいることが大事だと考える。

【田中会長】

今回の意見を正副会長で整理して、次回に示す。

以上で次第3 議題「(2) 自主的な審議」の「自主的審議事項について」を終了する。

次に、次第4 その他「(1) 次回開催日程」に入る。事務局の説明を求める。

【村山副所長】

- ・次回の協議会について説明
 - 日程調整 —
- ・次回の地域協議会：11月12日（水）午後6時30分から
上越市市民プラザ 第三会議室（予定）

【田中会長】

ただ今の説明について、意見を求める。

(発言無し)

意見が無いようなので、以上で次第4その他「(1) 次回開催日程」を終了する。

次に、次第4その他の「(2) その他」に入る。

その他、何かあるか。

(無しの声)

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690

E-mail : chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。